

## 給食施設からの相談

「ネズミ駆除のために殺そ剤を小皿に30粒入れ、数箇所においている。ところが、そのうちの一箇所の殺そ剤がすべて食べられている。しかも、その小皿にネズミの糞(ふん)がある。ネズミの対策を行いたいので指導をお願いしたい。」との相談が保健所がありました。保健所の要請により、衛生公害研究所と保健所とで合同調査を実施しました。

## 現場調査

現場に到着し、小皿に散乱しているネズミの糞といわれているものを観察しました。一見してネズミの糞ではありません。明らかに小さいです。「これは、ネズミの糞ではありません。他の生物のものでしょう。」と説明しました。ちなみに、衛生公害研究所で飼育しているハツカネズミの糞と比較してみました。明らかに大きさが異なります。

また、殺そ剤には、かじられた跡があります。殺そ剤は、米粒程度の大きさです。ネズミならば、一気にほお張る大きさです。ネズミのかじった跡ではないことは明らかです。

## 生息調査及び侵入口調査

相談を受けたものは、ネズミの糞ではなかったのですが、念のためにネズミの生息調査と侵入口調査を行いました。生息調査の基本は、ネズミの糞やかじり跡など、いわゆるラットサインの有無の確認です。給食施設には、全くラットサインは見つけれませんでした。また、ネズミを防ぐ施設の構造もほぼ適切なものでした。

ところが、調査の途中で排水溝に生息しているゴキブリを見つけました。種類は、ワモンゴキブリでした。

## ワモンゴキブリ

ワモンゴキブリは、屋内に生息する種類としては、最も大型種で、4センチメートルを超える個体もあります。排水溝のワモンゴキブリも、4センチメートルを超えていたでしょう。これだけの大きさのワモンゴキブリなら、相談を受けた糞を排泄(せつ)してもおかしくはありません。また、殺そ剤をかじったのもワモンゴキブリでしょう。

ワモンゴキブリは、熱帯原産です。そのため、寒さに弱く、京都市内の木造家屋の室温では、冬に死んでしまいます。こうしたことから衛生害虫としての評価は低いのですが、暖かい地方、例えば沖縄などでは、重要な衛生害虫とされています。

ところが最近度々ワモンゴキブリを見ることがあります。京都市内でも珍しい種類ではなくなりました。その原因の一つが下水道の普及です。下水道の内部は、冬季の外気の寒さに直接影響を受けません。そのために、冬季でもワモンゴキブリが生きていくことが可能になります。また、ビルの汚水ピットも下水道と同じような条件です。ワモンゴキブリが好んで生息する場所になっています。

今回のワモンゴキブリも下水道などを経由して侵入してきたのかもしれませんが。

## ワモンゴキブリの特徴

ワモンゴキブリの特徴は、胸部背面の輪状の模様です。このことから輪紋を持つゴキブリ、すなわちワモンゴキブリと呼ばれます。

## ネズミ駆除の基本

ネズミ駆除の基本の一つは、生息調査です。生息調査は、施設内のネズミの糞やかじり跡などのラットサインの有無を確認することです。ラットサインが確認されたときに初めて防除を実施します。ところが、今回の事例のように生息調査を行わず、殺そ剤を不用意に使用すると、殺そ剤は、ワモンゴキブリだけではなく、他のゴキブリ類にとっても餌となってしまいます。

